

氏名	山 川 晴 吾
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3642号
学位授与の日付	平成13年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Comparative Studies of MRI and Operative Findings in Rotator Cuff Tear (肩腱板断裂に対するMRIの有用性)
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 村上 宅郎 教授 光嶋 勲

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肩腱板断裂の診断におけるMRIの有用性を知ることを目的として、手術症例の術前のMRI所見と術中所見との比較検討を行った。

対象は58例60肩で断裂形態は完全断裂54肩、不全断裂6肩であった。全例術前にMRIと関節造影検査をおこなった。MRI診断は斜位矢状断および斜位冠状断のT2強調像で読影し、手術所見と比較した。完全断裂の診断率は感度85%、特異度83%、正確度85%および陽性的中率99%であった。不全断裂ではそれぞれ83%、85%、85%および39%であった。完全断裂54例のうちMRIでの診断を不全断裂と誤った8例全例が断裂の大きさが1cm以下の小断裂であった。完全断裂における断裂の大きさはMRIと手術所見で良く相関した($r=0.90$, $p<0.01$)。MRIは腱板断裂の診断において高い診断率を有しているが、断裂の大きさが1cm以下の小断裂と不全断裂の診断においては信頼性は低かった。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、MRIと関節造影検査を施行した肩腱板断裂58例60肩(完全断裂54肩、不全断裂6肩)について、術前のMRI所見と術中所見を比較検討したものである。その結果、完全断裂における断裂の大きさはMRI所見と手術所見で良く相関し($r=0.90$, $P<0.01$)、MRIは腱板断裂の診断において高い診断率を示していたが、断裂の大きさが1cm以下の小断裂と不全断裂の診断においては信頼性が低かったことを明らかにした。これらは、本症の術前MRI診断に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。